宿泊産業経営論 II

科目ナンバリング　MAN-236
選択必修　　2単位

金　　振晩

1. 授業の概要（ねらい）

急速に変化しつつある社会の価値観を踏まえ、観光産業、とりわけホスピタリティ産業の意味や役割、産業の全貌を概観する上で、宿泊産業のなすべき役割、そしてサービスとホスピタリティの本質の理解を目指す。具体的には、日本および欧米の宿泊（ホテル）産業に関する歴史・事業発展過程の解説を通じて宿泊（ホテル）ビジネス全般にわたる基礎知識およびサービスとホスピタリティ概念の相違等宿泊（ホテル）を取り巻くホスピタリティ産業を俯瞰的に解説する。

2. 授業の到達目標

本講義の到達目標は下記のとおりである。
①宿泊産業を取り巻く環境を理解し、宿泊産業の現状を説明することができる。
②宿泊産業にかかわる諸理論を理解し、説明することができる。
③宿泊産業にかかわるステークホルダーの役割を理解することができる。

3. 成績評価の方法および基準

小テスト（25%）、期末テスト（50%）、出席状況（15%）、授業態度（10%）。
なお、7回以上欠席した場合は、その時点で不合格となる。妥当な理由のない2回の遅刻は欠席1回とする。
講義に積極的に参加することを考慮し、成績に反映する。1回ほど外部講師をお招きし、講義を行うこともある。

4. 教科書・参考文献

教科書
特にない
参考文献
フィリップコトラー・ジョンボーエン・ジェームズマーキンズ【著】、平林　祥【訳】『コトラーのホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング　第3版』 ピアソン・エデュケーション
伊丹 敬之・加護野 忠男 著 『ゼミナール経営学入門　第3版』 日本経済新聞社

5. 準備学修の内容

前回の講義内容を復習してくること。

6. その他履修上の注意事項

・上記の参考図書を講読することを進める。
・できれば、宿泊事業論IとII、両方の履修が望ましい。
・講義内容を含め、欠席等の出欠については、何でも先生に相談すること。
・講義中には、私語・雑談は厳禁。

7. 授業内容

【第1回】　【第1回】ガイダンス・宿泊産業を取り巻く環境の変化
【第2回】　宿泊産業のカテゴリー別の収益構造
【第3回】　企画・広報部門の特性と組織運営体系
【第4回】　宿泊部門の特性と組織運営体系
【第5回】　宴会部門の特性と組織運営体系
【第6回】　食飲料部門の特性と組織運営体系
【第7回】　総支配人と人材管理①
【第8回】　総支配人と人材管理②
【第9回】　Back Officeの特性と安全管理
【第10回】　MICEと宿泊産業
【第11回】　レベニューマネジメント
【第12回】　ホテルアセットマネジメント①
【第13回】　ホテルアセットマネジメント②
【第14回】　宿泊産業の課題と展望
【第15回】　総括とテスト